

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月17日

【評価実施概要】

事業所番号	871900296		
法人名	社会福祉法人 博慈会		
事業所名	指定認知症対応型生活介護事業 虹の家		
所在地	牛久市女化町253-2 (電話) 029-874-5088		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年3月25日	評価確定日	平成20年9月17日

【情報提供票より】 (平成20年2月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 7人, 非常勤 6人, 常勤換算	5.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋造り		
	1階建ての	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年2月26日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	4	要介護2	11
要介護3	2	要介護4	1
要介護5		要支援2	
年齢	平均 83.6 歳	最低 65 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	牛久愛和総合病院・鳥越クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム全体がゆったりと家庭的な雰囲気中で、利用者者と職員の会話や笑いも多く明るい。
利用者一人ひとりの自主性と可能性を最大限活かせるよう、全職員で利用者の力量の把握に努め、食事作りなど一緒に楽しんでいる。
外部研修や日々の問題点は職員会議で報告を受け、その後全員のレポートにより、解決と共通理解を深めるなど、更なる質の向上に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 介護計画の期間内見直しが求められていたが、4ヶ月に1回見直しを実施している。地域との交流が求められていたが自治会に加入し、地域の行事に参加したり、小学生と交流するなど改善に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義を全職員で理解するとともに、求められているもの、目ざすもの、足りないもの、それぞれの気づきを常に確認し、さらなるサービスの質の向上に努めている。自己評価票と外部評価報告書は、家族や来訪者がいつでも見られるように玄関に置いている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ケアに関する問題点などを議題として報告・意見交換を行っている。 自治会に加入し、地域とのさらなる交流や協力を努めているが、会議の委員に利用者や家族が参加するまでには至っていないので、利用者や家族の参加を積極的に呼びかけるとともに、意見を吸いあげることにより、よりよい支援につながるよう期待する。 サービス向上のため、月1回介護相談員のアドバイスを受けている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月1回行事の案内・お知らせ等の“虹の家だより”と写真入の利用者の日常を書いたもの、金銭管理帳のコピー、領収書を家族に郵送している。 また、健康診断結果の報告などはその都度行い、家族が利用者の状態を把握できるよう配慮している。 年2回家族会を開いているが、参加者は常に半数くらいで苦情等を聞くまでには至っていない。 今後、家族会に参加を呼びかけるとともに、参加者の意見等を運営に反映させるため、別途アンケート調査の実施を期待する。 第三者相談機関を重要事項説明書に明示するとともに、玄関にも苦情申し立て窓口連絡先を明示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩時、地域住民と声かけや会話をすることで利用者顔馴染みができ、生活意欲が増えるよう雰囲気づくりに努めている。 また、自治会に加入したことで地域の行事への参加も増え、社会の一員としての自覚がでるよう取り組んでいる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住みなれた地域で昔ながらの雰囲気を大切にしたい主体的な生活が送れるよう、職員全体で話し合い、グループホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	頻繁に職員会議を開いてその都度振り返り、話し合うとともに確認・共通理解をして、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会したことで地域の行事への参加も増え、社会の一員としての自覚がでるよう取り組んでいる。 また、小学生と交流するほか認知症実践研究所の施設見学など、地域交流に積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を全職員が理解するとともに、求められているもの、目ざすもの、足りないもの、それぞれの気づきを常に確認し、さらなる質の向上に努めている。 自己評価票と外部評価報告書は、家族や来訪者がいつでも見られるよう玄関に置いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ケアに関する問題点などを議題として報告・意見交換を行っている。 運営推進会議で自治会加入を決定し、地域とのさらなる交流や協力につながっているが、会議の委員に利用者や家族が参加するまでには至っていない。	○	利用者や家族に会議への参加を積極的に呼びかけるとともに、意見を汲みあげることにより、よりよい支援につながるよう期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス向上のため月1回介護相談員のアドバイスを受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回行事の案内・お知らせ等の“虹の家だより”と写真入の利用者の日常を書いたもの、金銭管理帳のコピー、領収書を家族に郵送している。 また、健康診断結果の報告などはその都度行い、家族が利用者の状態を把握できるよう配慮している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開いているが、参加者は常に半数くらいで苦情等を聞くまでには至っていない。 玄関の外に意見箱を設けたり、面会時にも意見を聞いている。 第三者相談機関を重要事項説明書に明示するとともに、玄関にも苦情申し立て窓口連絡先を明示している。	○	家族会に家族の参加を呼びかけるとともに、意見等を聞き運営に反映させるため、独自のアンケート調査の実施を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があった時は利用者きちんと説明し、引継ぎ後はさりげなく挨拶して交代するとともに家族に“虹の家だより”でお知らせしている。 また、隣接施設へ異動の場合は、異動後も時々職員はホームに訪れている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修はその都度受けるようにしているが、年間計画を立てるにまでは至っていない。 研修の内容は職員会議でユニットごとに報告し、共通理解をしたうえで、全職員のレポート提出により、日々の支援に取り入れている。 ヒヤリハットの記録をもとに話し合うとともに、日々働きながら学んでいる。	○	管理者や職員の段階に応じたホーム独自の年間育成計画を作成することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の受け入れや外部評価の事例を参考しているが、連絡会等への加入には至っていない。	○	他の事業所との交流や見学・情報交換を積極的に行ったり、連絡会などへ加入することにより、更なるサービスの質の向上が図れるよう期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体施設のデイサービスから利用に移行する人が多く、家族の送迎で日中の利用を体験するなどにより、徐々に慣れてもらえるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりを一番に考え、思いや希望を会話や生活歴から把握している。 職員は利用者の主体性を重んじ、季節や行事毎の料理作り（おせち、さくらもち、ぬかづけ、梅干）や畑仕事など、一連の作業や利用者の生き生きした表情から学ぶとともに支援の意欲につなげている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や日々の関わりの中から伝わる意思や希望を把握し、利用者の希望にそえるよう職員で話し合い対応している。 年末にはつまみと少量の酒でテレビの紅白を見ながら、家庭的な雰囲気年越しをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員と家族等で話し合い作成している。 利用者一人ひとりの立場に立ち、課題や目標の設定等について意見を出し合い、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の要望や利用者の体調の変化に応じて柔軟に変更することで、利用者主体の生活支援をしている。 1日のケース記録をもとに大切なことは回覧して全員で確認し合い、4ヶ月に1回見直しに反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関と24時間体制で連携しており、利用者の希望により自宅の一時帰宅に付きそって仏壇掃除など、利用者が気にかけていることを手伝えるなど、安心と満足が得られるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医受診は家族送迎を基本としているが、家族の都合でやむを得ない時は指定病院での受診を支援している。 家族には利用契約時に受診支援について説明して了解を得ており、受診結果は電話で家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については主治医の意見を軸に、チームとして最大の支援方法を繰り返し話し合っている。 回復の見込みがなくなった場合は看取り計画書を作成し、看取りの方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの誘導や失禁・失敗などは声掛けにより目立たないようにさりげなく対応している。 居室に入る時は無断で入らず、個人情報には目につれないところに収納し、処分する時はシュレッダーにかけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や外出は時間を決めず、利用者一人ひとりのペースにあわせて支援しており、隣のユニットに一人で自由に遊びに行く利用者もいる。 趣味の茶道、書道などを希望で行っており、作品は居間に展示するとともに職員は利用者と一緒に過ごし、居間全体がゆったりとした雰囲気になっている。 利用者が畑で作業する時は職員も一緒に行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた旬の野菜を使うなど、利用者ができる力を発揮して作業分担し、職員の簡単な口添えで手際よく生き活きと食事作りに参加しており、家庭的な雰囲気にあふれている。 茶碗や湯のみは使い馴れたものを使うなど、食事中の職員との会話も楽しく、好みを事前に把握して代替のものを用意することもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりのペースに合わせた入浴対応により、時間に関係なく季節や行事を感じられるよう、ゆずや菖蒲を入れて会話したり歌を歌うなど、楽しい入浴を支援している。 女性職員の入浴介助を希望する利用者には希望にそって対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の余暇活動（花や畑の水やり、洗濯物干し、趣味の作品作り、野菜や花作り）等を職員と一緒に楽しんでいる。 建物の外周や施設内にベンチを置き、くつろいだり気分転換の散歩や自宅への一時帰宅の支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の健康状態に応じて、お弁当持参でドライブに出かけたり、誕生会にマイクロバスで寿司屋に行き喜ばれている。 近くの神社にさい銭を持ってお参りしたり、必要なものがある時は、利用者の希望が叶うよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やテラスの鍵をかけず開放し、利用者は自由に入出入りしている。 センサー付チャイムで出入りをチェックし、外出した時は職員が声をかけ、安全確保のため付きそっている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時マニュアルを作成し、全職員に周知を図っている。 自衛消防を組織し、消防署の防火訓練を受けているが母体施設との合同であり、グループホーム独自の避難訓練等までには至っていない。 また、広域非難場所の確認や備蓄品の内容確認が十分とはいえない。	○	グループホーム独自の具体的な避難方法を繰り返し行い、災害時に備えるとともに広域避難場所や備蓄品の内容について把握しておくことが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1,500CCの水分を確保するよう配慮している。 一人ひとりの食事は残食量で把握し、カロリーはご飯の量などで調節している。 月1回の体重測定や受診結果で栄養状態を把握し、献立は食事バランス表をもとに利用者の希望を取り入れて作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花やイベントの飾りつけなどを職員と利用者が一緒に行い、日々の手作り品を展示するなど、居心地の良い空間づくりに配慮している。 トイレ、浴室、居室の入り口には絵と字で表示したり、日にちと時間がすぐわかるよう日めくりカレンダーと時計を掛けるなど、場所間違い防止や時の見当意識に配慮して安心した毎日が過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた馴染みの品物の持込を制限せず、家具などは利用者と話し合い使いやすく配置している。 壁には家族の写真や貼り絵などの手づくり品を掛け、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。